

お知らせ

日本熱帯農業学会第 129 回講演会ならびに 2021 年度総会について

期 日 2021 年 3 月 16 日（火） 9：30～15：30

17 日（水） 10：00～15：45

場 所 Zoom によるオンライン開催

事務局 運営委員長 飛田 哲（国際農研）

運営委員 團 晴行、福田善通、中村智史、安西俊彦、松田大志、寶川拓生、伊ヶ崎健大、西垣智弘
〒305-8686 つくば市大わし 1-1 国際農林水産業研究センター内 JSTA129 事務局
メールアドレス jsta129@ml.affrc.go.jp

参加費 一般：3,000 円、学生：2,000 円

※ 発表講演の申し込みは終了いたしました。

※ 参加申し込みは 3 月 1 日（月）までです。jsta129@ml.affrc.go.jpにてお申し込み下さい。

※ 参加者には Zoom の URL とパスコードを事前に配布します。当日参加はできませんので、ご注意下さい。

※ 3 月 17 日午後の公開シンポジウムには、どなたでも無料で参加できます。幅広くお声をおかけ下さい。

公開シンポジウムへのお誘い

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）は 2008 年のスタート以来、世界 52 カ国で 157 のプロジェクトが行われてきました。熱帯地域の農業に関わるプロジェクトも多いので、熱帯農業学会の会員の皆さんや学会の活動に興味をお持ちの皆さんの中には、実際に SATREPS のプロジェクトに関わった方、あるいは現在関わっておられる方もいらっしゃると思います。途上国の現場に根ざし、人の顔が見え、そしてサイエンスがキラリと光る、そんなとてもエキサイティングなプロジェクトが多いですね。

さて、第 129 回日本熱帯農業学会の講演会の公開シンポジウムでは、事務局を務める国際農林水産業研究センター（国際農研）が代表として現在実施している SATREPS のプロジェクトについて、特にアフリカと南米で活躍されている新進気鋭の研究者の方々に話題提供をいただくことにしました。研究の成果だけではなく、研究のアウトプットをどうやったら現場のアウトカムに結びつけられるのか、様々な努力や工夫についても興味深いお話が聞けるものと思います。特に若い研究者の方々にとって、有意義な会になることを願っています。多くの方々の参加をお待ちしています。

総会ならびに講演会プログラム

講演会 研究発表（発表 12 分、質問 3 分） ◎印は学生優秀発表賞審査対象

第 1 日 3 月 16 日（火）

開始時刻	第一会場			第二会場		
	座長	番号	講演題目	座長	番号	講演題目
9:30	未定	1	◎ History of cannabis (ganja) as an economic crop in Bangladesh from the late 18th century to 1989 Rahman M. D. ATIAR et al. Shinshu University et al.	未定	10	◎ 登熟気温の違いが IR64 の栄養素に及ぼす影響 下柳莉佳子 ら 明治大学
9:45		2	◎ Traditional cultivation and production system of cannabis (ganja) by the Ganja Society in Naogaon, Bangladesh Rahman M. D. ATIAR et al. Shinshu University et al.		11	◎ 天水稻作における高吸水性ポリマーの施用がイネの生育および収量に及ぼす影響 有賀俊裕 ら 明治大学 他
10:00		3	◎ セネガル都市部における Best Worst Scaling を用いたコメの消費者選好分析 飛田八千代 ら 筑波大学 他		12	◎ 異なる土壌水分, 大気 H ₂ O・CO ₂ 濃度, 日射量に対応した蒸散モデルの開発 後藤啓太 ら 鹿児島大学 他
10:15		4	◎ ミャンマー北西部サガイン地方域より収集したトウガラシ遺伝資源 (<i>Capsicum</i> spp.) の特性評価 海野研太郎 ら 信州大学 他		13	◎ Effects of heat stress and approaches for the resiliency of rice at flowering stage Shafiqullah ARYAN et al. Tokyo University of Agriculture
10:30		5	◎ ミャンマーのザガイン管区域、ネピドー近郊山岳地帯およびシャン州より新規導入したサトイモ科 (<i>Araceae</i>) 遺伝資源の分類 久篠沙耶子 ら 東京農業大学		14	◎ An investigation of the role of compaction pressure and briquetting devices on briquettes' physical and combustion properties Christian Paul KOLONEL et al. Tokyo University of Agriculture
10:45		6	◎ カンボジア収集トウガラシ (<i>Capsicum</i> spp.) 遺伝資源の辛味成分含量の分布と諸形質との関係 小原正史 ら 信州大学		15	◎ Low-input cultivation using biochar derived from Siam weed and durian shell: A pot trial in Cambodia Vicheka LORN et al. Tokyo University of Agriculture and Technology

11:00		7	◎ パッションフルーツにおける成熟段階と着果負担の違いが果汁のカロテノイド含量および成分組成に及ぼす影響 柴 生成 ら 東京農業大学		16	◎ サゴヤシ根に内生するエンドファイト 浅野航輝 ら 名古屋大学 他
11:15	未定	8	仕立て法及び栽植密度の違いが施設栽培パッションフルーツの収量、果実品質に及ぼす影響 木崎賢哉 ら 鹿児島県農業開発総合センター	未定	17	Relationship between soil phosphorus with capsaicinoid, sugar and glutamic acid content in chili pepper Sathya Prabandaka SUDASINGHE et al. Shinshu University
11:30		9	トロイヤーシトレンジ台タンカン若齢樹の樹体特性 内野浩二 ら 鹿児島県農業開発総合センター 他		18	南インド農耕地土壌における土色と鉄含量およびメタン生成との関係 犬伏和之 ら 千葉大学 他
昼休み (11:45 ~ 13:15)						
13:15	総会 (~13:45)					
13:50	学会賞授賞式 (~14:00)					
14:00	受賞記念講演 (~15:10) 学術賞 「熱帯果樹の生殖生理における環境応答に関する農業生態学的研究」 樋口浩和 (京都大学) 奨励賞 「サトウキビ近縁遺伝資源等を利用したサトウキビ品種群、新規育種素材の開発」 寺島義文 (国際農林水産業研究センター) 「低酸含量の高品質なパッションフルーツ生産のための栽培管理方法に関する研究 とくに施肥管理方法に関して」 近藤友大 (京都大学)					
15:20	学生優秀発表賞授賞式 (~15:30)					

第2日 3月17日(水)

開始時刻	第一会場			第二会場		
	座長	番号	講演題目	座長	番号	講演題目
10:00	未定	19	鹿児島県島嶼部の在来カンキツであるクロシマミカン(シマミカン)の果実および遺伝的特性 山本雅史 ら 鹿児島大学	未定	25	ラオス中山間地水田に見られるリン酸高肥沃度の原因 松尾和之 ら 静岡県立農林環境専門職大学 他
10:15		20	摘蕾がマンゴーの開花結実に及ぼす影響 松田大志 ら 国際農林水産業研究センター		26	ラオス国内で収集したコウモリ糞の化学性と肥料効果 松尾和之 ら 静岡県立農林環境専門職大学 他
10:30		21	マンゴー (<i>Mangifera indica</i> L.) 品種‘リペンス’の炭疽病に対するギ酸カルシウム散布の影響 伊波 聡 ら 沖縄県農業研究センター		27	新植・再生した食用カンナ種系統における生育・根茎収量の年次間比較 宮崎 彰 ら 高知大学
10:45		22	タンザニアにおけるコメ価格の変動と稲作農家の経営戦略 加藤 太 ら 日本大学 他		28	ミャンマーにおける林産資源の保全と持続的利活用(2)野生コンニャクイモの栽培技術の普及 藤川和美 ら 高知県立牧野植物園 他
11:00		23	文献からみる徳之島の薬用植物 山本宗立 鹿児島大学		29	Comparative study of forest culture measurement between Tanzania and Japan Takayoshi SATO et al. Tokyo University of Agriculture
11:15		24	Recent mechanization and chemicalization of Myanmar agriculture in a village in Ayeyarwady Delta: A case study of Ywathitsu Village, Maubin Township, Myanmar Kazuo ANDO et al. Kyoto University et al.		30	インドネシア、中央カリマンタン・泥炭湿地林火災範囲の経年変化分析:MODIS EVI データを用いた解析 東城文柄 ら 長崎大学 他
昼休み (11:30 ~ 13:15)						

13:15	<p style="text-align: center;">公開シンポジウム（～ 15:45）</p> <p style="text-align: center;">「地球規模の農業・食料・環境課題に挑むー国際農研の SATREPS プロジェクト」</p> <p>趣旨説明：司会 飛田 哲（国際農研）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「養分利用に優れた稲作技術開発でマダガスカル食料安全保障に貢献」 辻本泰弘氏 ・「マダガスカル農村部での家計調査と栄養改善への示唆」 白鳥佐紀子氏 ・「ブルキナファソ産リン鉱石を活用した「肥料の地産地消」を目指して」 南雲不二男氏 ・「ブルキナファソ国産リン肥料を用いた農業の最適化」 岩崎真也氏 ・「過酷環境に耐える高栄養価作物キヌアで気候変動に立ち向かう」 永利友佳理氏 <p>総合討論：司会 小山 修（熱帯農業学会副会長、国際農研）</p>
-------	--